

吉原の身代り地蔵さん

昭和六十年二月五日号

吉原一丁目、岳南鉄道吉原本町駅裏の陽徳寺のお地蔵さんは、願いごとを聞いてくれるというので有名です。

このお地蔵さんは、昔、駿東郡青野村（沼津市）の光明庵というところに祭られていましたが、ある年の夏、大洪水があつて浮島沼へ流されてしまい、それを宿場の人たちが救い上げ、陽徳寺の本尊にしたということです。

目やにいっぱいの地蔵さん

吉原一丁目を寺町と呼んでいたころのことです。

寺町に悪性の眼病が大変はやつたことがあ



身代わり地蔵

りました。

町の人々は困つて、このお地蔵さんに願をかける、眼病はたちまち潮が引くように治つたといひます。

それからは、身体の弱い子、はしかの子、おでこの子など」とうか治してください」とお願いすると、大抵聞き入れてくれたということです。町の中から眼病がなくなつたとき、このお地蔵さんを見たら、目にいつぱい、目やにがついていたのでいつのころからか、身代わり地蔵と呼ばれるようになったそうです。

昔と変わらぬ縁日のにぎわい

毎年七月二十三日が地蔵堂の縁日で、盛大に地蔵さんを祭ります。

昭和二十三年以来、堂守りとして地蔵堂を守っている石井松庵さんは、「ふだんは願かけに来る人は、ほとんどいません。でも毎年の縁日は昔と変わらぬ大層なにぎわいを見せますね。



しかも不思議と病気がかわらぬという話がありますね」と縁日のようすを語ってくれました。